



# YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY

「ロータリー：変化をもたらす」 Rotary: Making a Difference

2017-18年度 RI会長／イアン H.S.ライズリー RI.D2590ガバナー／湯川 孝則 横浜旭RC会長／滝澤 亮

国際ロータリー第2590地区

## 横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-37-3 NUTS1階/〒241-0821  
TEL.045-465-6702/FAX.045-465-6712  
http://yokohamaasahirc.cho88.com  
Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp

例会場 横浜市旭区二俣川1-45-30工藤ビル  
(榊岡田屋3階会議室)

例会日 毎週水曜日/12時30分～1時30分



旭区民まつりにて熊本みかん販売



熊本自転車支援



ガールスカウトとクリーン作戦

2018年4月4日 第2330回例会 VOL. 49 No. 35

■司 会 副SAA 北澤 正浩

■開会点鐘 会長 滝澤 亮

■斉 唱 君が代、奉仕の理想

■出席報告

会員数	31名	本日の出席数	27名
本日の出席率	96.43%	修正出席率	100%

■本日の欠席者

宋、本山

■他クラブ出席者

大川 (横浜中 RC)、増田 (横浜田園 RC)

新川 (地区)

地区協議会出席者

市川、安藤、田川、斎藤、兵藤、新川、

大川、北澤、滝澤、青木、宋、須藤

二宮 (麻)、太田 (勝)

■ゲスト

沈 佳穎様 (米山奨学生)

■4月誕生記念祝



齋藤 善孝会員

4.29

■会長報告

皆様こんにちは、4月1日の日は地区研修・協議会が聖光学院にて開催されました。出席義務会員の皆様は休みの中ご苦勞様でした。桜吹雪舞う中、暖かな一日でよかったです。来期からは金子ガバナーの意向で地区・研修・協議会の見直しと、大きかったのは懇親会の中止でしょう。英断であったと、感じております。

私は、4月6日(金)に聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院に入院致します。約1ヶ月の入院と言われておりますので、ゴールデンウィーク明けには復帰できる予定です。それまで会員の皆様には、ご迷惑をおかけいたします。

本日は、増田次年度ガバナー補佐のご挨拶です。宜しくお願いします。

■幹事報告

1) 例会臨時変更のおしらせ

○神奈川東ロータリークラブ

日時 4月27日(金)休会

日時 5月4日(金)祝日休会

日時 5月11日(金)→13日(日)移動例会

春の家族会

日時 6月29日(金)年度末夜間例会

## ■親睦委員会

後藤英則

親睦委員会で計画しておりました大岡川を屋形船に乗り桜見物をする会ですが、昨年より船宿と話し合いをしながら日程を4月8日(日)に設定致しましたが、今年は桜の開花が全国的に異常に早く、4/8では葉桜状態になってしまうとの事です。

大岡川祭りも4月7日8日に実行予定ですが、桜まつり実行委員会でも桜の無い桜まつりで困っているようです。その様な状況ですので、誠に申し訳ございませんが、今年の計画は中止とさせていただきます。

## ■プログラム委員会

市川 慎二

4月25日は体験例会日となります。是非ご紹介をお願い致します。

## Rotary 体験例会へのお誘い

20世紀初頭のシカゴの街は、著しい社会経済の発展の陰で、商業道徳の欠如が目につくようになっていました。その頃、ここに事務所を構えていた青年弁護士ポール・ハリスはこの風潮に堪えかね、友人3人と隣らひ、お互いに信頼のできる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたい、という趣旨でロータリークラブを考えました。こうして、1905年ロータリークラブがシカゴに誕生し、以来志を同じくするクラブが各地に生まれて、今では200以上の国と地域に広がり、クラブ数約33,000、会員数約120万人に達する国際的組織です。

クラブの会員は毎週の会合で、親睦を深め、地域社会の様々な問題に取り組む活動を計画しております。そこで今回は体験例会と称し、日頃クラブ会員のみが出席できる例会に、ロータリークラブの活動の理解広報を兼ね、会員の知人ご友人に開放し例会を共に楽しむ企画です。

例会の内容は、昼食をとりながら、前半はクラブの各部門の活動報告、後半は卓話（講演）となっております。どうぞ、お気軽にご参加いただけることを願っております。

**4月25日水曜日** 午後12時30分  
～1時30分

例会場 / 横浜市旭区二俣川1-45-30 工藤ビル (株岡屋3階会議室)

卓話者 (講演者) 声楽・合唱指揮者  
中田 幸子氏



●プロフィール  
東部に生まれる。  
フェリス学院大学音楽学部声楽科卒業。声楽を三宅善恵氏、指揮法を山田一雄氏に学ぶ。フランス・ナント市での国際声楽コンクールの審査員をはじめ、合唱、声楽、ピアノ等の審査員を数多く務める。多くの合唱の指揮、声のトレーナーとして活躍し、合唱を通して海外での演奏も多く、アメリカ西海岸サンフランシスコ、オーストラリア、中国、シンガポール、旧ユーゴスラビア各地、多岐に渡っている。現在、音楽出版ハビーエコー代表、混声合唱「アンサンブル・メイ」女声合唱団「みずばしやう」等の指揮及び指揮者。フェリス学院評議員、国際ソロプチミスト横浜西会長、神戸市混声合唱団元音楽監督、横浜音楽文化協会会員  
作曲家 中田喜直夫人

## ■50周年記念事業準備委員会

委員長 安藤 公一

○横浜旭 RC50 周年記念事業について

1) 過去の周年事業

10周年記念事業

大池自然公園日時計

20周年記念事業

区民センターへ車いす寄贈

30周年記念事業

ズーラシア (都築自然公園) 植樹

40周年記念事業

猫塚整備

2) 祝宴

10周年：昭和55年(1980年)3月2日

鶴ヶ峰グリーンヒル幼稚園講堂

20周年：平成2年(1990年)4月11日

ホテルリッチ

30周年：平成12年(2000年)4月15日

横浜ベイシェラトン

40周年：平成22年(2010年)1月16日

キャメロットジャパン

3) 検討要素

旭区の周年事業に協賛

旭区における当クラブの存在を広く告知できるもの⇒会員増強に繋がる

(他の継続事業との関連)

・チャリティーロックコンサート

・被災地児童へのクリスマスプレゼント

・ふれあい区民まつり

・旭区在住外国人への日本語教育支援

・災害時基金の設立 (計画中)

(基本要素)

・100周年に向けてこれからの10年をどう進めていくか

・100周年時のクラブの将来像、それに向けて60周年時にはどうあるべきか

・会員全員のコンセンサス作り

## ■ニコニコBOX (会員敬称略)

滝澤 亮 / 地区研修協議会に出席の会員の皆様、ご苦勞様でした。本日の卓話、増田次年度ガバナー補佐よろしくお願ひ致します。

田川 富男 / 役員の方々、地区研修協議会への出席、ご苦勞様でした。次年度も宜しくお願ひ致します。

市川 慎二 / ①増田先生、ガバナー補佐での挨拶宜しくお願ひ致します。②4/2より新しい保育園が完成し無事スタートできました！

齋藤 善孝 / 誕生日祝いを頂きありがとうございます。来年は大台になります。

北澤 正浩 / ①妻にお花をありがとうございました。②増田さん、ガバナー補佐就任おめでとうございます。

大川 伸一 / ①遅くなりましたが、3/24のがんセミナーには会員の皆様にサポートをいただきまして有難うございました。②増田先生、本日の卓話よろしくお願ひします。

吉原 則光／初夏の暑さの中の例会となりました。増田さん、卓話よろしくお願いします。楽しみです。

安藤 公一／①増田さん、次年度ガバナー補佐お疲れ様です。卓話宜しく申し上げます。②4/1に地区協議会ご参加の皆様、お疲れ様でした。来年度宜しく申し上げます。

増田嘉一郎／次年度ガバナー補佐を務めさせていただきます。よろしくお願いします。本日は卓話で、次年度以降の事を説明致します。

兵藤 哲夫／佐藤利明さん、地区協議会代理出席、誠に有難うございました。おかげ様でビックサイトのイベント無事終わりました。

須藤 亘／①先日、地区研修会参加させて頂きました。新会員の集まりでの研修も参加させて頂き勉強させて頂きました。②本日の卓話増田会員、宜しくお願ひ致します。

#### ■ガバナー補佐就任前卓話

2018-19 年度第5北グループガバナー補佐

増田嘉一郎



#### 1) 序

この3年間、ガバナー補佐が就任前に各クラブを訪れ、卓話をするのが慣例とのことである。内容は自由ということである。今日は6クラブを回る最初になるので、時間配分のリハーサルと考え、まずは次年度の問題から取り上げていく。最初にRI会長テーマが次年度は、「インスピレーションになろう」ということなので、日本語では分かりにくいから、まずはこの点に関する私の考えを説明し、次に第2590地区ガバナー方針を若干補足し、3番目に第5グループと第7グループとの合併問題を取り上げ、時間が余ったら、残った時

間に応じてテーマを考えようと思っている。

#### 2) RI 会長テーマ

(1) まずは、RI 会長テーマである。

次年度は「インスピレーションになろう」とのことである。これが何を意味するのか分かりにくい。国際協議会でのRI会長テーマ発表時に、各国語で、日本語も同時に発表されている。日本語でインスピレーションといえ、ば、「インスピレーションが湧く」という風に使われ、「直感からのひらめき、瞬間的に浮かぶ思いつき」のことである。辞書を引くと、語源はラテン語で、「息を吹き込まれたもの」という意味の言葉とある。「吹き込まれたかのように心にふと感じる、その不思議な『感覚』のことをさす」ともいっている。しかし、RI会長テーマは直感やひらめきのことではなさそうである。この「感覚」というのも、意味が分からない。英和辞典をみると、鼓舞、激励という意味が書いてある。この辺を手掛かりに、RI会長エレクトや金子ガバナーエレクトの文書をも参考に、「インスピレーション」とは何かを探っていく。

(2) 次年度RI会長バリー・ラシンが会長テーマを解説した文書がある。勝手に要約すると、次のとおりとなる。

ロータリーは、類まれなる不朽の価値を提供する。私たちは世界的に影響を生み出し、力を合わせればたいていのことを実現できる能力とリソースを兼ね備えている。真に変化を生み出す奉仕をもっと実現するために、私たちはロータリーの自分の役割、そして世界におけるロータリーの役割をこれ迄と違う角度からとらえていく。ロータリーは公共イメージにもっと重点を置き、ソーシャルメディアを活用し、会員基盤を築き、奉仕のスケールアップを助長する。

大切なのは、前向きな変化を生み出し、今日直面する課題に勇氣と希望、そして創造性をもって正面から立ち向かう意欲を、クラブ、地域社会、そして組織全体から引き出すための「インスピレーション」となる必要がある。ロータリーは可能性を指し示し、そこに到達

する意欲を引き出し、行動を通じて世界の「インスピレーションになる」ための道を切り拓いていく。

(3) 次に金子ガバナーエレクトの見解を紹介する。ポリオ撲滅、災害時の援助や平和と紛争予防、水と衛生、基本的教育への援助などまだまだ課題が多い。今年度のテーマ「インスピレーションになろう」は、それら課題に「立ち向かう意欲を引き出し、皆を鼓舞し、皆の励みになろう」と言い換えることができる。人の繋がりが活動の源であり、奇跡を起こす基である。皆と連携してこそこの達成感が得られるということ大切にしたい、と言っている。「インスピレーション」は、「意欲を引き出し」、「鼓舞」し、そして「励み」になるものということである。これがガバナーエレクトの示した正しい解釈であり、これに逆らうものではないが、分かりやすく一言でいえる言葉が欲しい。

(4) 「インスピレーション」という言葉を聞いてから常にモヤモヤ感が漂っていたのであるが、この間の地区研修・協議会で講演をされた刀根莊兵衛第 2650 地区パストガバナーは、「インスピレーション」を「モチベーション」という言葉で説明された。これは分かりやすい。自らの、或は他へ働きかける力となるものである。一言で言い表せる言葉としては、「モチベーション」という言葉がそのイメージにあい適切ではと聞いていた。

同時に発表された各国語の RI 会長テーマに、多分全てに「インスピレーション」という言葉が表記されており、全世界同じ言葉を使う方が訴える力は強いと考えたのであろう。しかし、浅学非才な私にとっては、一つの言葉で「事を起こす『モチベーション』になろう」という方が分かりやすい。

(5) 「ロータリーの友」4月号に「国際協議会レポート」が掲載されており、バリー・ラシン RI 会長エレクトの発言も紹介されている。その中で、何度か「インスピレーション」という言葉がでてきており、「モチベーション」という言葉に置き変えても意味が通じるか、

検討してみる。次のとおりである。

ア) クラブや地区の皆さんにインスピレーションを芽生えさせてください。私たちの標語「超我の奉仕」からインスピレーションを得て、ロータリーを通して行動するようクラブや地区の人たちにインスピレーションを与えましょう。

イ) インスピレーションを与えるために、心に留めておくべき4つの要素として、「ロータリアン、クラブ、地域社会への愛着や共感」「ロータリーの熱意や世界を変えることへの熱意を強く伝えること」「行動力」そして「自ら行動し模範を示すこと」を挙げました。

ウ) ロータリアンのインスピレーションになってきたポリオ撲滅行動を挙げ（以下略）。

エ) ロータリーが問題が起きてから対応するのではなく、先手を打つことのできる組織となれるようインスピレーションになってください。

オ) 彼女の熱意がインスピレーションとなって、さまざまな国のロータリアン、企業を巻き込み、世界に変化をもたらす（以下略）。

カ) 戦略計画は、ロータリアンの願いや希望を取り入れながら進化していくものです。皆さんのストーリーが私たちの未来です。皆さんも周りの人のインスピレーションになって下さい。

キ) もっと多くの人に多くの変化をもたらさせるよう、他の人のインスピレーションになってください。「モチベーション」と言い換えることにより、日本語としてその言わんとするところが明確になるのであり、現時点ではあくまでもイメージとしてではあるが、「インスピレーション」は「モチベーション」と解するのが分かりやすく適切なような気がしている。ご意見があれば聞かせていただければと思っています。

### 3) ガバナー地区方針

次に金子ガバナーエレクトが掲げた地区方針は、「それぞれが輝くロータリー・自らの行動でクラブの可能性を上げよう」である。高良年度の「クラブの魅力創りと活性化」、湯川

年度の「ともに語ろうロータリー 友達になろう」を受けてのものである。クラブの魅力創りと活性化からロータリアン同士が友達になり、そして次年度はロータリアン一人ひとりが行動し、輝くことを求めているのである。

RI 会長エレクトも金子ガバナーエレクトも課題に立ち向い、そのために行動することを求めている。その行動の対象として、まずは全世界で問題となっている重要課題を挙げてはいるが、お二人はさらに、各クラブの地域に根ざした活動、あるいはクラブ内における活動をも対象に挙げる。金子ガバナーエレクトは、地区方針としてそれを指摘し、クラブの可能性を拓げるために、一人ひとりが輝くことを望んでいる。そのための7つの目標を掲げているので、ガバナー方針を良く読んでいただきたい。ガバナー方針をこのように理解する。

#### 4) 第5グループと第7グループの合併

(1) 現在 2590 地区は、57 クラブ中、27 クラブが 30 名以下の会員であり、クラブは小規模化している。ガバナーエレクトは、クラブの負担の少ない地区を、地区運営方針としている。そもそも地区の予算は逼迫化している。ガバナーエレクトは経費の節減に取り組んでいる。会員が 15 人位のクラブでは、地区研修・協議会に会員のほとんどが出席しているという状況にあったことから、今年度は、委員長を兼務しているクラブの負担を減らすため、クラブ管理運営部門や奉仕部門を統合して、全部で8部門となっている。

申込書の管理運営部門と奉仕部門の中に、従来どおりの各委員長名を記載していたため、従来どおり委員長代理が出席したクラブもあったとは思いますが、ただ、出席しただけのメリットはあったであろうが、他方最後の懇親会がなくなったのに、出席者の参加費は1万円のままである。地区にお金がないためとご理解いただきたい。そして、第5グループと第7グループの合併も地区やクラブの負担を減らす一つのことである。

(2) しかし、一気に完全統合までもっていく

ことは、混乱を招く。そこで、2018-19 年度は、現在の第5グループと第7グループは合併するが、2人のガバナー補佐が、各々現在の第5グループと第7グループを別々に担当し、従来どおりの運営をしながら、19-20 年度の完全統合に備え具体的準備に入る。

地区の各グループの名簿も、各クラブが RI 加盟承認順に並んでいるが、18-19 年度は、現在の第5グループと第7グループとをその名簿のまま並べることになる。グループの名称は、現第5グループが第5北グループであり、現第7グループが第5南グループである。ただ、第5グループは、瀬谷区、旭区、緑区、青葉区、港北区のクラブであり、第7グループは南区、港南区のクラブであり、両者の間には距離がある。いかにも、員数あわせの感じがいなめない。1人のガバナー補佐が、この両グループを担当することになった場合、単にクラブ訪問が倍数になるだけではなく、移動の時間も大変であろう。会長・幹事会も、次年度は新横浜でやることにしたが、以後新横浜でやるか、南区でやるかによっては、どちらかの負担が重くなる。他にどのようなデメリットがあるのか、特にクラブとしてのデメリットをこれから検討していくことになるが、それを回避する方法をも探りたい。

クラブとしてのメリットについては、最大のメリットは積極的に合併論を提案していた第7グループによると、青少年交換のホストクラブや米山奨学生のカウンセラーの負担が軽減することである。

現在、青少年交換のホストクラブではホームステイ先を探すのに苦労している。また、各グループでは、各クラブがホストクラブに対し、金銭的に支援している。この金銭的負担もクラブ数が増えることにより減少することになるという。地区では、グループ数が減ることにより経費が減るといわれている。具体的に何が減るのか良く分かっていないが、経費削減に取り組んでいる地区財政の現状からみて、地区の支出が減っても、会員数は減少傾向にあり、クラブの地区への負担金が減

ることにはなりそうもない。第5グループで順番でガバナー補佐を出していた各クラブにとって、ガバナー補佐の成り手がおらず、人選に苦労していたクラブには、ガバナー補佐を出すのが11年に1回となり、この負担は減少する。

ガバナー補佐の年齢は、40代から80代までと幅広く、クラブは何人かの候補者の中から選べるようになるのかもしれない。未だガバナー補佐の就任前でもあるので、その他にどのようなメリット・デメリットがあるのかまで正確に把握できていない。お気づきのことがあれば、教えていただきたい。実際に動き出す19-20年度にならないと、正確なことは分からないのかもしれない。

(3) これからガバナーエレクトを含めて、現第7グループガバナー補佐との間で2019-20年度に備えて協議していくこととして、予定されている事項は、次のことが考えられる。グループの名称は、再び第5グループとなる。ア) 地区のクラブ名簿の新第5グループの名簿は順番を並び替えるのか。今各グループではRI加盟承認順にクラブ名を並べている。これを現第5と第7の全クラブを加盟承認順に並び替えるかである。これは、これから挙げる全てのクラブの担当の順番に結びつきそうであり、早い段階で決める必要があると思っている。

イ) ガバナー補佐1名をどのように選出するか。第5グループは、現在各クラブが順番にガバナー補佐を推薦している。横浜旭RCの次は、慣例に従うと横浜田園RCである。第7グループは、ガバナーからの1本釣りのことである。このどちらかを選出するのであろう。ただし、19-20年度の1Mは第5グループの順番となるので、ガバナー補佐を出すクラブがIMのホストクラブとなるのであろう。この年度のガバナー補佐さえ決まれば、後はクラブ名簿の順に回せばと思っているが、もしかしたら、最近ガバナー補佐を出したばかりのクラブがその次にきたら、第5北グループでは1年置きに現行の順番を維持すべきという意

見もできるかもしれない。

今後は、11年に1回のことだといって納得してもらえるかである。19-20年度は、第5グループの順番となる。

ウ) IMは18-19年度は第4グループがホストクラブとなることが決まっており、ガバナー補佐を出しているクラブなら横浜港北RCとなろう。これは以降も、ガバナー補佐を出しているクラブとなるなら、ガバナー補佐の順番さえ決まったら容易に解決するであろう。

エ) 青少年交換のホストクラブは、現第5グループでは、18-19年度は慣例に従い横浜緑RCと決まっている。第7グループでも従来どおりの順で負担するのであろう。

そうするとこれも19-20年が問題となる。第5グループでの順番は、横浜旭RCである。(前にホストを務めたタイからの留学生ナムフォンからホストが第5グループを一回りしたことになる) ガバナー補佐と同様、第7グループの順番クラブとどちらが担当するのか、決めることになるのだろう。

その後は、組み換えられた名簿の順番で回すのではないだろうか。横浜旭RCにとっては直接利害関係に結びつく問題となろうが、ホストクラブになったとしても、11年に1回のことと割切ってもらえればと思う。

オ) 米山奨学生については、従来毎年度各グループに3、4名割り当てられており、これは従来どおり、前年度担当していないクラブを中心に割り当ててるのではと思っている。

(4) まだ漠然とした部分が多く、2018-19年度の会長・幹事会で各クラブの意見を聞きながらガバナーエレクトや第5南グループのガバナー補佐と話合っていくことになろうが、このような問題は、クラブの会長経験者等のベテラン会員の経験から来る意見が参考になるのかもしれない。

各クラブ会員の皆様も会長エレクトにご意見を寄せていただければと思っている。

#### ■次週の卓話

4/18(水) 倉本 宏昭会員

週報担当 大川 伸一